

● 使用材料・使用器具

使用材料

キクスイ 15kg/缶
 プライマースーパーE
 グラナダF 20kg/缶
 (2色組合せ)

使用器具

計量 秤
 下塗り エアレススプレー等
 基層塗り リシンガン又はコテ
 模様塗り兼
 模様付け 仕上げゴテ

● 標準施工仕様

(23°C、50%RH)

工程	使用材料		調合 (重量比)	所要量 (kg/m ²)	塗り 回数	工程間隔時間(hr)		備考
						工程内	工程間	
下塗り	キクスイ プライマースーパーE		15kg 無希釈	0.1~0.19	1		3以上	エアレススプレー等
基層塗り	グラナダF		20kg	0.8~1.0	1	-	6以上	リシンガン 口径:4~6mm 吹圧:0.5~0.6MPa コテ
	清水	吹付け塗り コテ塗り	1~2kg 0~0.5kg					
模様塗り 兼 パターン 付け	グラナダF (2色組合せ)		20kg	1.6~2.0	1	配り塗り 兼 模様付け		仕上げゴテ (L:210~240mm)
	清水		0~0.5kg					
仕上げゴテなどを使用し、材料配り塗りと共に、2色組合せてコテに乗せ、円弧状に意匠付けをする。								
養生撤去	養生シートなどの撤去を行う。					-	直後又は 乾燥後	
最終養生	施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。					-	24以上	

● 標準施工要領

1. 下塗り

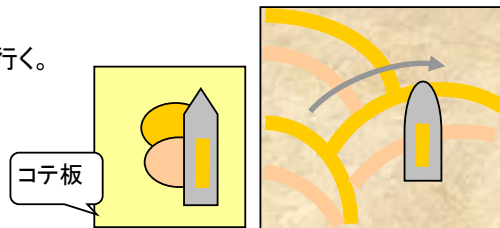
- ① 下塗材は、下地の状況に合わせて、適切な下塗材を選定する。
- ② 下塗りは、下地の吸い込みとそのばらつきを防ぐため、だれ、塗り残しのないように均一に塗り付ける。コーナー部など入隅、出隅は特に入念に塗付する。

2. 基層塗り

- ① 開缶後缶壁に付着した主材を缶内に落とし、一度均一にまぜる。
- ② 主材に、指定量内の清水を加えハンドミキサーなどで均一に混合し、定められた模様になるように粘度を調整する。計量は秤などを使用する。
- ③ 基層塗りは、下地がスケないようにリシンガンで吹き付けるか、又はコテなどを使用し塗り付ける。

3. 模様塗り兼パターン付け

- ① 出隅、入隅、開口部廻、大面積連続壁で意匠目地を必要とする場合は25mm幅の装飾養生をする。特に妻壁は各階などで、また長スパン壁は適度なスパンで装飾養生を取るようになる。
- ② 主材(各色)は定められた模様になるように指定された清水を加え、ハンドミキサーなどで均一に混合する。なお、水の計量は秤などを使用し、希釈水量はあらかじめ試し塗りして決める。
- ③ 模様塗り兼パターン付けは仕様にあった施工用具を使用し、指定された所要量を塗り付ける。
- ④ まず、2色の材料をコテ板に乗せ、2色同時にコテで2~3回軽くこねる。
- ⑤ パターン付けは、コテL:210~240mm程度の仕上げゴテや丸ゴテなどを使用して、2色の材料を同時にコテに乗せ、コテ跡を円弧状に付けて、ややランダムな連波様の混色の意匠付けをする。
- ⑥ パターンの大きさ、コテ継ぎの間隔などにより仕上がり感が異なるため、見本板などであらかじめ設計担当者に確認を行っておくようにする。
- ⑦ 表面皮張りが早いので、直射日光など避けて施工する。
- ⑧ 模様塗り・パターン付けは上部から下部に向け施工して行く。
- ⑨ 各コテ跡は、丁寧にコテ跡を付けていくようにする。
- ⑩ パターンは、壁全体のバランスも考慮して整える。



4. 養生撤去他

- ① 養生の撤去は、施工終了後直ちに行う。すぐにできない場合は、材料が完全に乾燥した後、慎重に行うこととする。なお、水切部などにバリの出ている場合は、カッターナイフで取るようにする。
- ② 施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。
- ③ 足場つなぎ部のタッチアップ補修を行う。